

令和5(2023)年11月3日

日本シェリー研究センター会員各位

## 日本シェリー研究センター 第32回大会のお知らせ

遠くに望む山々が錦繡に彩られる季節となりました。会員の皆様におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。

今年も、日本シェリー研究センター年次大会のご案内をする時期が参りました。第32回大会を、12月2日(土)13:10より**帝京大学霞ヶ関キャンパス**にて開催いたします。

今年度のプログラムも、昨年ご好評をいただいた研究発表から始まり、すぐれた講師陣によるシンポジウム、そしてアルヴィ宮本なほ子先生(東京大学)による特別講演が予定されております。

数年にわたって猛威をふるった新型コロナウイルスの脅威も多少和らいできている状況に鑑み、今回も対面とオンラインのハイブリッド(ハイフレックス)方式で開催することにいたしました。対面そしてオンライン双方の良い面を活かし、盛会になることを大いに期待いたします。奮ってご参加のほど、よろしく願いいたします。

当日皆様にお会いできることを心より楽しみにいたしております。

日本シェリー研究センター会長

木谷 巖

## ハイブリッド大会開催に関して事務局よりお知らせ

感染症流行などの状況を鑑みまして、今年度も対面と Zoom を併用したハイブリッド形式で年次大会を開催いたします。プログラムに先立ちご案内申し上げますので、ご一読のほどをよろしくお願いいたします。

### ハイブリッド大会開催について

年次大会は、対面とオンライン会議システム Zoom を併用して開催いたします。Zoom ミーティング情報の詳細は、後日メールにてお知らせします。その際、会議が行われるサイトの URL 並びにミーティング ID 番号、パスコードをお送りします。日本シェリー研究センターにメールアドレスの登録がない方で Zoom 大会への参加をご希望の方は、11月20日（月）までに詳細送付用のメールアドレスを細川 ([hosokawa@g.matsuyama-u.ac.jp](mailto:hosokawa@g.matsuyama-u.ac.jp))にお知らせください。その際、件名は「23年度大会参加希望」としたうえで、会員の方はお名前、会員でない方はお名前とご所属をお知らせください。Zoom ミーティングへの参加方法に関しては、以下のリンクをご参照ください。

### Zoom ミーティングに参加する方法

<https://zoom-japan.net/manual/pc/join-zoom-meeting/>

## 事務局からのご案内

### 1. 開催方法変更の可能性について

感染症拡大の状況を鑑みて、対面とオンラインを併用するハイブリッド大会から完全オンライン大会に変更になる場合があります。完全オンライン大会になった場合は、決定次第、大会進行を含む詳細を日本シェリー研究センターHPにてお知らせいたします。

### 2. 出欠確認について

11月20日までに、大会への出欠と出席方法（対面 or オンライン）を、プログラムと共にお伝えした Google フォーム (<https://forms.gle/trSHZQke6QvPJJJaS9>)にてお知らせください。

### 3. 会費について

大会会場では会費の支払いを受け付けておりません。7月にお送りした振込用紙をご利用いただくか、下記の振込先へお振込みください。よろしくお願いいたします。

振込先：ゆうちょ銀行 00190-0-661999 日本シェリー研究センター

### 4. 会場費について

会場費は無料です。お気軽にご来場ください。

### 5. 懇親会について

現在、感染症などへの配慮から、公式での懇親会の開催は控えさせていただいております。しかしながら、会場に参加された方を中心に、私的な形でささやかな会を持つことも検討しておりますので、ご来場の際には、お近くの幹事にお声がけいただければと存じます。

# 帝京大学 霞ヶ関キャンパス ご案内

大会会場：帝京大学霞ヶ関キャンパス

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-16-1 平河町森タワー9階

土曜日の常として、ビルの玄関は施錠されております。

ドアの内側で係員が待機しておりますので、ご入場の際は声をお掛けください。



## ●永田町駅下車

東京メトロ有楽町線、半蔵門線、南北線「永田町駅」より徒歩約1分（4番出口）

## ●赤坂見附駅下車

東京メトロ銀座線、丸ノ内線「赤坂見附駅」より徒歩約6分（7番出口）

会場に関しては、以下のサイトも併せてご参照ください。

### ●平河町森タワー 駅からのアクセス

[https://www.livex-inc.com/office\\_and/office-introduction/hirakawacho-moritower/](https://www.livex-inc.com/office_and/office-introduction/hirakawacho-moritower/)

### ●平河町森タワー ビル外観・エントランス写真

<https://tokyo.kashi-jimusho.com/detail/52961/>

# 日本シェリー研究センター第32回大会

日時： 2023年12月2日（土）13:00 受付

場所： 帝京大学 霞ヶ関キャンパス 9階

\* 昨年の八王子キャンパスとは違う会場です。アクセスについては上記のページをご参照ください

## プログラム

1. 13:10 開会の辞 会長 木谷 巖
2. 13:15 研究発表 内藤 瑠梨  
ジェーン詩篇における“female voice”と音楽の調和——後世の声楽曲との比較と共に  
司会 黒瀬 悠佳子
3. 14:00 シンポジウム  
「死と語り——イギリス・ロマン派詩人の周辺」  
  
パネリスト I 細川 美苗  
美しくも無力な天使——メアリ・シェリーが物語る P. B. シェリー  
パネリスト II 池田 景子  
メアリ・シェリーの『マチルダ』再考—死を希求する主人公の語り  
パネリスト III 田代 尚路  
不道德な詩人から感覚の詩人へ——ケンブリッジ使徒会におけるシェリー評価について  
司会 細川 美苗
4. 15:50 特別講演 アルヴィ宮本 なほ子  
“I think you would like it”: 二人のシェリーとサフィー  
司会 鈴木 理恵子
5. 16:50 年次総会 昨年度分会計報告・役員改選・その他

共催 科研研究基盤 (C) 「イギリス・ロマン派第二世代詩人の死と神話形成」(課題番号 22K00397)

## 研究発表

### ジェーン詩篇における“female voice”と音楽の調和 ——後世の声楽曲との比較と共に

内藤 瑠梨

P. B. シェリーが生涯のうちで、美しい抒情詩を妻メアリ以外の複数の女性に捧げていることは周知の通りである。その中でも、晩年にジェーン・ウィリアムズをうたった詩篇は数多く残されており、彼女がギターを奏でながら歌を歌う描写もさることながら、先行研究においては、音楽との関連で語られることが多い。本発表では、ジェーン詩篇のうち、後世に付曲のある“To Jane: The keen stars were twinkling” (comp. 1822) を中心に、詩の言葉の音楽性を探り、ジェーンの歌声 (“female voice”) と音楽的な響きの調和について考察する。また後世の作曲家エドワード・エルガー(1857-1934)やイギリス歌曲作曲家として名高いロジャー・クイルター(1877-1953)による声楽曲との比較を通して、シェリー独自の世界観が音楽作品ではどのように表現されているのか断片的に検討してみたい。

(ないとう・るり 東京藝術大学博士課程)

## シンポジウム

### 「死と語り——イギリス・ロマン派詩人の周辺」

#### 美しくも無力な天使

#### ——メアリ・シェリーが物語る P. B. シェリー

細川 美苗

マシュー・アーノルドはバイロン詩集の序において、バイロン及びワーズワースの詩と比べてシェリーの詩が力強さに欠けると述べ、シェリーを「光り輝く翼を虚空に羽ばたかせる美しくも無力な天使」と評したことはよく知られている。か弱く、理想を追い求めながらも、儂く夭折した詩人というシェリー像は、ヴィクトリア朝において広く受け入れられていたのではないだろうか。

アーノルドは、メアリ・シェリーによる1839年版『シェリー詩集』から上述のシェリー像を得たと述べている。そのような夫の姿を描きだすことにメアリ・シェリーは心を砕いており、『シェリー遺稿詩集』や『シェリー詩集』のみならず、『ヴァルパーガ』と『最後のひとり』もそういったシェリー像を構築するために活用されていることを確認したい。

(ほそかわ・みなえ 松山大学)

## メアリ・シェリーの『マチルダ』再考 ——死を希求する主人公の語り

池田 景子

メアリ・シェリーの中編小説『マチルダ』(1819年執筆)は、死を目前に控えた主人公マチルダが自分の半生を振り返ってそれを手記にしたための体裁を取っている。メアリは本作品をイタリア滞在中に執筆し、イギリスで出版してもらおうとマライア・ギズボーンを介して父ウィリアム・ゴドウィンに原稿を渡す。しかし、ゴドウィンは父と娘の近親相姦といったテーマに眉をひそめ、本作品の出版を禁じて生涯メアリに原稿を返却することもなかった。本シンポジウムでは、ゴドウィンの批判の矛先となった、本作品の後半部における主人公の描写——死を希求する主人公の語り——にこそメアリが近親相姦のテーマを通して示そうとした問題意識が隠されていると評価し、『マチルダ』で描かれる近親相姦の内実がどのようなものかを明らかにしていく。なお、本発表は日本英文学会第76回九州支部大会における考察を発展、修正したものになる予定である。

(いけだ・けいこ 九州国際大学)

## 不道德な詩人から感覚の詩人へ ——ケンブリッジ使徒会におけるシェリー評価について

田代 尚路

1820年代末から30年代初頭にかけてのケンブリッジ使徒会において、シェリーの再評価が着々と進められていた。使徒会員のアーサー・ハラムらは、1829年に『アドネイス』を再版し、同年11月には、「シェリーの詩は不道德な傾向を持つか」とのテーマで議論を交わしている(なお、ハラムに加えて、同じく使徒会員だったアルフレッド・テニスンが「否」に票を投じた)。さらに、ハラムは1831年に「現代詩のいくつかの特質およびアルフレッド・テニスンの抒情詩について」という論考を発表。その中で、シェリー、キーツ、テニスンを「感覚の詩人」として同列に並べ、高い評価を下している。本発表では、シェリーの死から10年も経過していないこの時期に、ハラムやテニスンら使徒会員たちが創作および批評においてどのようにシェリーの遺産を受け止めたのか、その軌跡を辿りたい。

(たしろ・なおみち 大妻女子大学)

## 特別講演

### “I think you would like it”: 二人のシェリーとサファイア

アルヴィ宮本 なほ子

1816年12月5日の消印がある手紙で、メアリ・ウルストンクラフト・ゴドウィンは、滞在中のバースからパーシィ・ビッシュ・シェリーに“I have also finished the 4 Chap. of Frankenstein which is a very long one & I think you would like it”と書き送っている (*Letters* 1:22)。メアリの12月5日の日記には、“Shelleys [sic] sets off for Marlow”とあり (*Journals* 148)、おそらく、メアリはパーシィがマーロウの家探しに発つ直前にこの章を仕上げたと思われる。この手紙にある『フランケンシュタイン』の第4章とは、長い間、1818年版の第1巻の第4章——ヴィクター・フランケンシュタインが実験室で死体を寄せ集めて作った人造人間に生命を与える『フランケンシュタイン』の核となる章——と考えられてきたのだが (ex. *Journals* 149 n.4)、チャールズ・ロビンソンの綿密な草稿研究によって、別の可能性が浮上している。

ロビンソンは、メアリの手紙の「第4章」とは、おそらく、現存していない、1816年11月後半から12月5日にかけて書かれた第2巻第4章 (原「サファイアの章」) であると推測している (*The Frankenstein Notebooks. Part One. Draft Notebook A lxxxxiii*)。1816年12月5日の段階では「とても長い」ものであった「第4章」がサファイアの章だとすれば、メアリとパーシィの両方かあるいは片方によってその章は長すぎると判断され、3巻立ての1818年版の第2巻のずっと短い第5章 (サファイアの到着とフランス語のレッスン) に「短縮」されたと考えられる。ロビンソンは、その修正が行われた可能性のある時期をいくつかあげ、一番遅ければ、1817年4月下旬に、1818年版の第2巻第6章 (サファイアの来歴とサファイアの父の事件についての章) と一緒に修正されたと推測している (lxxxxiii)。

メアリは、サファイアの章のどこをパーシィが「気に入ると思う」と思ったのだろうか。また、パーシィはサファイアの章のどこが気に入った (あるいは気に入らなかった) のだろうか。本発表は、これらの疑問を出発点とし、サバルタンスタディーズ、インターセクショナルリティの概念などを援用しながら、フェリックスのアラビア人の恋人の来歴、その父母の造型、その名前が1817年4月にサファイアに落ち着くまでのメアリの名前探しの迷走について検討し、『フランケンシュタイン』の物語では、言葉を発さず、途中で消えてしまったサファイアをパーシィが自分のテキストにどのように取り入れ、言葉を与えるかを考察する。 (アルヴィみやもと・なほこ 東京大学)